

## 職員が聞いたつぶやき

わたしたちが地域のいろいろな方のお話を聞かせていただく中で、聞こえてきた「つぶやき」をご紹介します。「つぶやき」は、どうかしたい、こうなったらいいなどの想いの現れ。地域をよくしていくための芽のようなものと思います。簡単に変えていけるものではないけれど、少しでも皆さんの幸せにつながる方法はないか、わたしたちも一緒に考えさせていただきたいと思っています。

若い人と交流できる場がほしい。

学校に通う子どもの送迎が大変。

閉じこもってしまうお年寄りが心配…。

地元の美味しい野菜を、若い人たちにも喜んで食べてもらえる料理を知りたい。

地域にあるいろいろな団体の世代交代が、なかなかうまくいかない。

あなたのお力貸してください！

このかわら版は、皆さんからお聞きした情報をもとに作っています。賀美石にこんな素晴らしいものがある、がんばっている人がいる、きれいな景色があるなど、情報がございましたら、ぜひお寄せください。

また、かわら版の作成に協力してくださる方も大歓迎です。そのほか、地域をよくしていくためのアイデアやご提案をお持ちの方もどうぞご連絡ください。

連絡先：協働のまちづくり推進課（担当 大河原）  
TEL0229-63-3215 FAX0229-63-2037

## 編集後記

わたしたちは、役場「協働のまちづくり推進課」の職員です。この聞きなれない長い名前の課を説明するとき、「今も素晴らしいこの地域をさらによい地域にするために、住民の皆さんと一緒にがんばらせていただく課です。」と説明します。でも、実際どうやって？わたしたちも悩みました。悩んだ結果、皆さんにたくさん話を聞いて、地域を教えてくださいるところから始めようという結論になりました。話を聞いてみると、皆さんがこの地区に深い愛情を持ちながら、それぞれに素晴らしい才能を発揮されて暮らしていらっしゃるということがわかりました。将来を考えたとき、少しの不安を抱えておられることも。かわら版には、聞き取りをもとに地区の素晴らしいヒト・モノ・コトの資源と、皆さんのつぶやきを掲載しました。もっとよい地域に、もっと幸せな暮らしを。それを実現するには、行政だけではできないし、地区の皆さんだけでも難しい面があるかもしれません。今回掲載したような素晴らしい地域資源をヒントに、皆さんとひざをつきあわせてじっくりゆっくり、一緒に考えさせていただきたいです。どうぞこれからもよろしく願いいたします。

ヤクバ職員が見て、聞いて、教わった賀美石。

# 賀美石かわら版 創刊号

発行：加美町協働のまちづくり推進課  
発行日：平成29年2月1日  
連絡先：〒981-4292  
加美町字西田三番5番地  
TEL：0229-63-3215  
FAX：0229-63-2037  
E-mail：kyodomatidukuri@town.kami.miyagi.jp



子どもたちによるステージ

平成28年11月3日、賀美石地区秋祭りに行ってきました。幼稚園から長寿会まで、幅広い年代の方々のステージや、さまざまな展示が行われ、会場となった賀美石地区公民館大ホールは熱気にあふれていました。

特に今回は、賀美石小学校6年生が調べた東山官衙・壇の越遺跡についての展示に加えて、町生涯学習課から同遺跡の講話も聴くことができ、地区の歴史を深く知ることができる内容でした。ここには、本当に古くから連綿と人の営みが続いてきたのだと実感します。

祭りの中で、最も大勢の人を集めたのは、賀美石小学校の皆さんによる芸能だったのではないのでしょうか。1・2年生は花笠音頭、3・4年生は大黒舞、5年生はソーラン節、6年生は鳥屋ヶ崎獅子舞と、全校児童がかわるがわるステージを彩り、観客は廊下まであふれていました。

わたしたちは地域の方々とお話をさせていただき、この祭り開催のために、さまざまな年代や役割の方々

のご尽力があったことを知りました。例えば、豚汁やおにぎりの振舞いをするために、お母さん方が何時間前から準備をされていたか、当日までに役員さんたちがどれだけ調整されてきたか、すべてが皆さんの力の結晶です。

賀美石地区には、古くからの歴史・文化と、それを伝えながらも現在をよりよくしようという、人々のつながりを感じます。それが素晴らしいこの地区の宝だと思いました。



美味しい豚汁のお振る舞い



# 孫沢 収穫祭



11月6日(日)孫沢集会所で秋の収穫祭が行われ、地域の皆さんが心を込めて育ててきた米や野菜をふんだんに使った料理の振る舞いや、多彩なステージイベントが開催されました。

特に目を引いたのは、ボランティアのお母さん方手作りのおもち。種類は、あんこ・ずんだ・ごま・おろしもち(酢と醤油)でした。やわらかくとても美味しいおもちでした♪



ステージでは、もちつき大会、ピアノ演奏の披露、早食い対決、高校生による舞の披露などで地域の子供たちが大活躍◎そのがんばりに、

会場内からは大きな拍手が送られました。収穫祭のラストはカラオケタイム。区長さんによる「臉の母」はこの日一番の盛り上がりでした。

こんなふうに地域の人たちが集まって、語り合い、笑い合える場があるのはとても素敵ですね。

# ミニデイ

また、11月15日(火)には孫沢集会所でミニデイが行われ、参加された16名の皆さんに孫沢の昔のよもやま話をお聞きしました。

まず、冬の遊びを伺うと「そりっこあそび」「スキー」との声が。なんと、昔はおじいさんやお父さんたちが、竹を火であぶって曲げながら、手作りのそりやスキーを作ってくれたそうです。

また、昔のおやつの話もお聞きしました。これといったおやつは特になく、タケノコの皮に梅をはさんで巻いたものを吸ったり、柿を塩水に漬けて食べていたそうです。また、周辺になっている木の実や植物(桑の実、グミ、すかんぼなど)を食べていたという話も…。

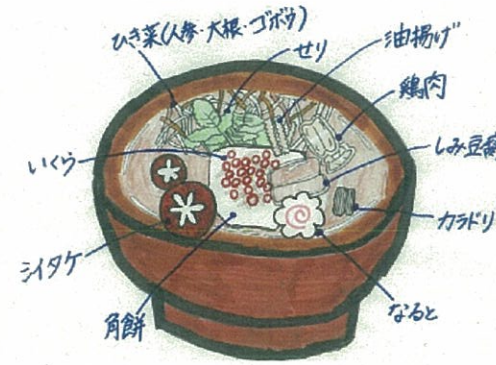


収穫祭・ミニデイともに区長さんをはじめ、地域のみなさんがとても優しく、温かい雰囲気でお迎えくださいました。孫沢の皆さん、ありがとうございました。

# 賀美石婦人会の皆さんに聞きました!

11月18日(金)に賀美石公民館で行われた賀美石婦人会の集まりに参加させていただきました。この日、婦人会の皆さんは公民館の窓ふきの奉仕作業に取り組んでいらっしゃいました。地域活動の拠点である公民館が、地域の皆さんによって大切に守られているのは素晴らしいことですね。

作業後「地域のこと」について皆さんにお話を伺いました。婦人会の方々といえばお料理上手な方が多い!ということで、まずは賀美石地区のお正月の食卓についてお聞きしました。

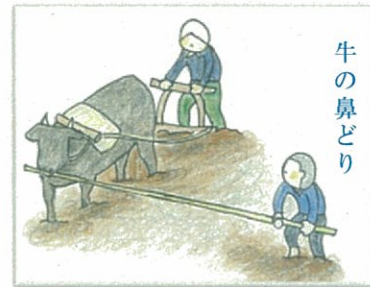


お正月といえばやっぱりお雑煮。出汁は主にスルメを使い、3日前からひたしておくそうです。ほかには、油揚げ、にぼし、かつお節で出汁をとるという方も。具は、角切り餅と、ひき菜、せり、油揚げ、なると、カラドリ、しみ豆腐、椎茸など。中には、いくらをのせたり、ズッキーニを入れたりするご家庭もありました。お聞きした内容をイラストにすると、左のようなイメージですね。また、おせちは黒豆、栗きんとん、かまぼこ、エビ、卵焼き等を重箱に入れるそうですが、昔ほど作らなくなったそう。各家庭での世代交代が進んだせいかな…との声も聞かれました。

最後に「今、やってみたいこと」についてお伺いし、料理教室や転倒予防教室、手芸教室といった意見を出していただきました。来年度は、一緒に皆さんの「やりたい」を実現するため、またお話しする機会を設けていただくことにしています。女性の皆さんが元気にされていると、地域も家庭も明るくなりますね。わたしたちもそれを応援させていただきたいです。賀美石婦人会の皆さん、ありがとうございました。



# 米泉ミニデイ



12月8日(木)には米泉集会所で行われたミニデイに参加。参加者25名の皆さんに、米泉のよいところや昔話をお聞きしました。

子どもの頃のごちそうについてお聞きしたところ、「おもち」とのこと。いろいろな種類のおもちの話が出ましたが、特に驚いたのは、水あめをからめたおもちにきなこをかける「あめもち」です。その水あめも、昔は家で大麦から作ったそうです。また、あんこもちに砂糖がわりに干し柿を入れることもあったとか。昔は砂糖が貴重だったので、様々な工夫をされていたのですね。

また、昔の農業のお話もありました。特に大変だったのは、「牛の鼻どり」だそうです。「牛の鼻どり」とは、牛を使って田を代掻きするときに、鼻に竹ざおを結わえて誘導すること。大人は牛の後ろにいて「まんぐわ(馬鍬)」で土を耕すので、鼻どりは主に子どもの仕事でした。裸足で入る田んぼは寒ければ「す(氷)」が張っていることもあったほど。子どもたちは曲がったり転んだり、うまく誘導するのは難しかったそうです。

昔の話を伺う中で、折にふれて語られたのが戦時中の思い出でした。城泉院に兵隊さんが常駐していて、大黒森に防空壕を作った話。仙台空襲のときは、空が昼間のように明るくなったこと。とつとつと、時に笑いを交えて語られる話が、わたしたちの胸に迫りました。皆さん、苦しい時代を一生懸命生きてこられて、その上に現在があるのですね。米泉の皆さん、ありがとうございました。

# 東山官衙・壇の越遺跡



秋祭りでは、東山官衙・壇の越遺跡から出土した土器や瓦なども展示されました。

賀美石秋祭りでは、賀美石小学校6年生の皆さんが調べた東山官衙・壇の越遺跡のパネルがずらりと並んでいました。「賀美石小学校の下は遺跡だった!」というのは、やはりそこに通っている小学生の皆さんには驚きですよ。パネルはどれも詳しく調べられていて、感心してしまいました。

東山官衙遺跡は鳥屋ヶ崎八幡神社の裏、壇の越遺跡は賀美石小学校から本郷の方まで広がっています。東山官衙遺跡は奈良・平安時代の役所、壇の越遺跡は役所の南側に広がる街があった場所です。壇の越遺跡には東山官衙遺跡の役所で働いていた役人や兵士などが住んでいたと考えられます。

当時、現在の福島県から宮城県にかけての地域は「陸奥国(むつのくに)」と呼ばれ、奈良や京都に都を置いた律令国家の支配下にありました。一方、

大崎地方より北は、律令国家に属さない「蝦夷(えみし)」の住んでいる地域でしたが、領土を広げたい律令国家と守りたい蝦夷の間では、しばしば戦いが起きていました。まさに東山官衙遺跡は当時の国境におかれた、政治的・軍事的に大切な拠点だったのです。壇の越遺跡は、碁盤の目状に区割りされた街並みですが、この時代にこれだけ道路整備されている街は全国的に珍しいそうです。律令国家がどれだけこの地を重要視していたかが分かります。

壇の越遺跡の道路の交差点からは、須恵器と呼ばれる土器を6~7枚重ねて埋めたものが見つっています。これは「災害や不幸が街に入らないように」という祈りが込められていると考えられています。時代は変わっても、祈る心は同じなのかもしれませんね。